

IBM DB2 Alphablox



リリース概要

バージョン 8.4

IBM DB2 Alphablox



リリース概要

バージョン 8.4

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、53 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows (製品番号 5724-L14) バージョン 8 リリース 4、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

Copyright © 1996 - 2006 Alphablox Corporation. All rights reserved.

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC18-9606-01
IBM DB2 Alphablox
Release Overview
Version 8.4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.3

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

第 1 章 DB2 Alphablox 8.4 の新機能 . . . 1

複数ロケールのサポート	1
新たにサポートされるプラットフォーム	1
DB2 Alphablox Cube Server の機能拡張	2
Excel へのエクスポート機能の拡張	3
PDF へのエクスポート機能の拡張	4
チャート作成 API の機能拡張	4
リレーショナル・レポート用の新しい FastForward テンプレート	5
永続的なブックマークを持つ新しい Alphablox ポートレット	6
ハイ・アベイラビリティ・クラスタリング	6
Blox UI モデルに基づくプリンター・レンダリング形式	6
追加の言語サポート	6

第 2 章 アップグレードおよびマイグレーション情報 9

第 3 章 対処済みの機能拡張要求 13

第 4 章 対処済みの問題 15

アセンブリー・ワークベンチおよび例に関連した修正	15
チャート関連の修正	15
データ関連の修正	15
グリッド関連の修正	16
一般的な DHTML クライアントおよび UI コンポーネントに関連した修正	16
Alphablox Cube Server 関連の修正	16
ReportBlox に関連した修正	17
プラットフォーム関連の修正	17
資料に関連した修正	17

第 5 章 既知の問題と対処法 19

Tomcat 上の既知のインストール問題	19
資料のインストールに関する既知の問題	19
インストールに関する一般的な問題	20
既知のプラットフォームの問題	20
ユーザー・インターフェース	21
チャート作成	21
CommentsBlox	21
データ・マネージャーおよびデータ接続	22
DHTML クライアント	22

FastForward	23
DB2 Alphablox Cube Server	23
リレーショナル・レポート	23
PDF のレンダリング	24
サーバー・サイド・プログラム	24
Telnet コンソール	25
WebLogic	25
WebSphere	26
DB2 Alphablox 一般	26
既知のデータ・ソースの問題と対処法	26
DB2 OLAP Server と Hyperion Essbase の既知の問題	26
Microsoft Analysis Services の既知の問題	27

第 6 章 除去された機能およびプラットフォーム・サポート 29

除去された Blox メソッド	29
除去されたリポジトリ関連メソッド	32
Blox UI モデルから除去されたメソッド	32
除去された定数フィールド値	33

第 7 章 使用すべきでない API 35

使用すべきでない API	35
使用すべきでないフィールド	38
使用すべきでないコンストラクター	38
使用すべきでないクラス	38
使用すべきでないインターフェース	39

第 8 章 資料 41

PDF 資料	42
既存の Alphablox インストール先へのインストール	42
スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール	43
インフォメーション・センターおよび Javadoc 資料へのリンクの構成	44

第 9 章 アクセシビリティ 47

Blox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカットとアクセラレーター	48
ReportBlox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカット	50

特記事項 53

商標	55
--------------	----

第 1 章 DB2 Alphablox 8.4 の新機能

IBM® DB2® Alphablox for Linux®, UNIX® and Windows® バージョン 8.4 には、アプリケーションをより広範囲に、より簡単にデプロイできるようにする多数の新機能が追加されています。新機能には、複数ロケールのサポート、Microsoft® SQL Server 2005 Analysis Services サポート、WebSphere® Application Server 用の垂直クラスタ、リレーショナル・データ・ソース用の新しい FastForward テンプレート、変更せずにポータル・アプリケーションで使用可能な新しいポートレットがあります。また、このリリースには、DB2 Alphablox を分析アプリケーション用のさらに強力なフロントエンド・ツールにする、高度で実用的な機能拡張が多数含まれています。このような機能拡張には、Excel および PDF へのエクスポート機能の改善や、チャート内のトラフィック・ライト効果の作成があります。さらに、このリリースでは、DB2 Alphablox Cube Server を使用したリレーショナル・キューブの作成と管理のサポートが引き続き拡張され、持続的な算出メンバー、部分的なメタデータ・キャッシング、メタデータの機能拡張、フィルター/統計用の追加的な MDX 機能などがサポートされます。

複数ロケールのサポート

DB2 Alphablox V8.4 には、複数のクライアント・ロケールのサポートが追加されました。サーバーのロケールとは無関係に、ブラウザの言語設定に基づいて Blox ユーザー・インターフェース、FastForward アプリケーション・フレームワーク、およびクエリー・ビルダー・ツールが表示されるようになりました。右から左に表示される言語の場合、Blox ユーザー・インターフェースが自動的に正しく表示されるようになったため、プログラマ的に方向を設定する必要がなくなりました。

変更またはカスタム Blox UI コンポーネントを持つアプリケーションの場合、ソース・バンドルをインポートするためにカスタム JSP タグ・セットを使用できます。この機能を使用すれば、アプリケーションを国際化して複数のクライアント・ロケールをサポートすることができます。複数ロケールをサポートするようアプリケーションを設計する方法について、詳しくは、複数ロケール用の設計に関するトピックを参照してください。

新たにサポートされるプラットフォーム

このリリースで新たにサポートされるプラットフォームは次のとおりです。

- Hyperion System 9
- Microsoft SQL Server 2005 Analysis Services
- Microsoft SQL Server 2005
- WebSphere Application Server の垂直クラスタリング

「インストール・ガイド」のシステム要件に関するセクションを参照してください。

DB2 Alphablox Cube Server の機能拡張

DB2 Alphablox Cube Server を使用すれば、スター・スキーマまたはスノーフレーク・スキーマとして保管されているリレーショナル・データの多次元分析を実行できます。DB2 Alphablox Cube Server の管理ページでは、リレーショナル・データのマルチディメンション表現を作成したり、DB2 Cube Views™ 内の既存のキューブ定義のメタデータを使用することができます。

このリリースでは、次のようなサポートおよび機能拡張が追加されています。

- キューブ定義における算出メンバーの定義のサポート
- 再帰的な親子階層のサポート
- レベル・キーのサポート。レベル・キー式を使用すれば、メンバーのユニーク性をより適切に実現することができます。
- すべてのレベル、およびすべてのメンバーのサポート。ディメンションの機能が拡張され、「すべての」レベルを持つかどうか指定できるようになりました。また、オプションで、すべてのメンバー名を指定できます。
- ディメンション・タイプのサポート。ディメンションを「**Regular**」または「**Time**」とマーク付けできるようになりました。この機能拡張によって、時系列を扱う MDX 関数のサポートに関連した以前の制限事項がなくなります。
- レベル・タイプのサポート。このリリースではキューブ定義内のレベルの機能が拡張され、以下のいずれかのレベル・タイプになります。
 - REGULAR
 - TIME
 - TIME_YEARS
 - TIME_HALF_YEARS
 - TIME_QUARTERS
 - TIME_MONTHS
 - TIME_WEEKS
 - TIME_DAYS
 - TIME_HOURS
 - TIME_MINUTES
 - TIME_SECONDS
 - TIME_UNDEFINED
 - UNKNOWN
- スケーラビリティ機能の拡張。メンバー・キャッシング用のチューニング・パラメーター設定が新たに追加されました。メンバー・キャッシュを使用すれば、多数のメンバーを持つキューブのメモリー所要量を削減できます。
- 追加の MDX 関数と演算子:

分類	関数または演算子
フィルター関数	Filter、IIF、IsEmpty

分類	関数または演算子
時系列関数	YTD、QTD、MTD、WTD 次の既存の関数の完全サポート: OpeningPeriod、ClosingPeriod、ParallelPeriod、LastPeriods、PeriodsToDate
統計関数	分散: <ul style="list-style-type: none"> • 分散: Var、Variance、VarP、VarianceP • 標準偏差: Stdev、Stddev、Stdevp、Stddevp
項目演算子および項目関数	Aggregate、CoalesceEmpty、NonEmptyCrossjoin、Ordinal、NameToSet、Rank、DataMember、AllMembers
演算子	Is、And、Or、Not、XOR、>、>=、<、<=、=、<>

詳細は、「DB2 Alphablox Cube Server 管理者用ガイド」の『サポートされる MDX 構文』を参照してください。

Excel へのエクスポート機能の拡張

DB2 Alphablox では、Excel テンプレートおよびマクロを介してネイティブ Excel 形式にデータをエクスポートできるようになりました。ユーザーはユーザー・インターフェース内の「Excel にエクスポート」ボタンをクリックした後、提供されている 2 つのテンプレートから選択するか、テンプレートを使用しないことを選択できます。

- **Default** テンプレートは、グリッド内のデータを Excel にエクスポートし、グリッド・データに基づいてチャートを生成します。チャートはグリッド・データに基づいて生成されるため、
 - エクスポートされたグリッド・データを変更すると、チャートが自動的に更新されます。
 - Excel で生成されるチャート (図表) の外観は、DB2 Alphablox のチャートと正確に同じとは限りません。
- **Use Chart Data** テンプレートは、チャート・データをグリッドの別個のワークシートにエクスポートし、チャートを生成します。DB2 Alphablox のチャート・データを使ってチャートが生成されるため、
 - チャートの外観は DB2 Alphablox のチャートによく似ています。
 - グリッド・データとチャート・データは互いにリンクしていません。エクスポートされたグリッド・データを変更しても、チャートは更新されません。
- 「**テンプレートなし**」オプションは単に、出力の MIME タイプを application/vnd.ms-excel に設定するだけです。この MIME タイプは、ブラウザから Excel アプリケーションを起動して HTML ページを表示させます。このオプションの場合、Excel テンプレートまたはマクロは使用されません。

アプリケーション開発者は、DB2 Alphablox から Excel ワークシートにエクスポートされるプロパティに基づいてカスタム・テンプレートを作成できます。詳しくは、Excel へのデータのエクスポートに関するトピックを参照してください。

PDF へのエクスポート機能の拡張

このリリースでは、生成される PDF レポートのレイアウトをユーザーがより制御することが可能になりました。また、アプリケーション開発者は、ブラウザ・セッションなしで PDF レポートを作成することができます。

レイアウトに対するより一層のユーザー制御

ユーザーが Blox ユーザー・インターフェース内の「PDF にエクスポート」ボタンをクリックすると、「PDF レポートの作成」ダイアログ・ボックスが開き、ユーザーはここでレポートのレイアウトを指定できます。ページの向き、ページ・サイズ、ヘッダー・テキスト、フッター・テキストなどの一般的な設定に加えて、このリリースでは次のような機能がユーザーに提供されます。

- グリッド内のデータ列を複数ページに適合させる
- チャートの高さや幅を指定する

詳しくは、「PDF レポートのデフォルトのユーザー・インターフェース・オプション」を参照してください。

ブラウザ・セッションなしで PDF レポートを保管する

これまでは、JSP ページをブラウザにロードしない限り、PDF レポートを保管できませんでした。新しい `writePDFToFile()` メソッドを使用すれば、Java™ コード内に JSP ページを呼び出して、指定のファイル名および場所に PDF レポートを直接保管することができます。詳しくは、『PDF の保管場所とファイル名の指定』を参照してください。

チャート作成 API の機能拡張

API を介して、値に基づいてデータ系列の色を設定することにより、トラフィック・ライト効果をチャート内に作成できるようになりました。チャートの凡例を制御し、ユーザーが対話するチャート内のデータ・ポイントを識別し、カスタム傾向線アルゴリズムを作成するための新しいオブジェクトと API がいくつか提供されています。さらに、貢献度チャートという新しい種類のチャートも提供されています。

データ系列の色の設定

データ値に基づいてデータ系列の特定の色を設定することにより、トラフィック・ライト効果をチャート内に作成できるようになりました。こうすれば、ユーザーの注意をデータに向けることができます。GridBlox のセル・アラート機能と同様に、複数のしきい値を指定し、しきい値に基づいてさまざまな色をデータ系列に適用することができます。詳しくは、『チャート系列色を使用したデータの強調』を参照してください。

凡例に対するよりプログラマ的な制御

チャート内の凡例項目をよりプログラマ的に制御する新しい `LegendItem` クラスが `com.alphablox.blox.uimodel.core.chart.common` パッケージに追加されました。これにより、どの凡例項目を表示するか、凡例項目の順序、色、表示テキストなどを指定

できます。詳しくは、『チャート系列色を使用したデータの強調』のトピックの『凡例項目の色と表示ラベルの設定』のセクションを参照してください。

ユーザー対話に関連付けられたデータ・ポイントを識別する新しい API

チャート内でユーザーが対話を行うデータ・ポイントについて、より詳しい情報が表示されるようになりました。たとえば、DoubleClickEvent 用のコントローラーを独自に作成することにより、結果セット内の厳密にどのデータ・ポイントにイベントが適用されるかを識別できます。データ・ポイントに関連した固有のグループ・メンバー、系列メンバー、フィルター・メンバーを取得するための新しいメソッドが ChartBrixModel に追加されました。

カスタム傾向線アルゴリズム

独自の傾向線アルゴリズムを実装できるようになりました。DB2 Alphablox には、6 種類の傾向線 (線形、対数、多項式、累乗、指数、移動平均) があります。AbstractTrendingAlgorithm クラスを継承することにより、独自のアルゴリズムを作成することができます。これは API だけの機能拡張です。傾向線の選択ダイアログにはカスタム・アルゴリズムが表示されません。詳しくは、ChartBlox タグ属性 trendLines を参照してください。

貢献度チャート

貢献度チャートは「積み重ねウォーターフォール」図に似ています。これらは、関連する 2 つの変数系列を視覚的に表します。たとえば、ある製品がセール中の場合、貢献度チャートを使用すれば、この特別セールが同じ棚に並んでいる隣の製品の売り上げに“良い影響”を及ぼすかどうかを調べることができます。詳しくは、ChartBlox タグ属性 contribution を参照してください。

リレーショナル・レポート用の新しい FastForward テンプレート

DB2 Alphablox FastForward は、カスタム分析ビューをすばやく開発、デプロイ、共用するためのサンプル・アプリケーション・フレームワークです。アプリケーション管理者は、レポート・テンプレートを選択してレポート・パラメーターを構成することにより、レポートをすばやく作成および発行した後、新しいアプリケーションをデプロイすることができます。

このリリースでは、ReportBlox を使用するリレーショナル・データ用の新しい FastForward テンプレートが追加されました。このサンプル・テンプレートを使用すれば、リレーショナル・レポートを扱うアプリケーションを簡単に作成できます。このテンプレートには、個人用データ・ビューの保管と共用を簡単に行う機能や、ナビゲーションを簡単に行う機能など、多数の組み込み機能が用意されています。このテンプレートは、FastForward 管理ページのテンプレート・ドロップダウン・リストで「**Sample Report Blox**」と表示されます。

永続的なブックマークを持つ新しい Alphablox ポートレット

このリリースでは、変更せずにそのまま使用できる新しいポートレットが提供されています。このポートレットは、次のようなオプションをユーザーに提供します。

- データ・ソースの動的な切り替え
- メニュー・バーとツールバーの表示/非表示の切り替え

ユーザーは Blox ユーザー・インターフェースを使用して対話することができ、異なるデータ・ビューのためにブックマークを作成できます。1つのポートレット内で作成した公開ブックマークを、ポータル・ページ内の同じポートレットの別のインスタンスで使用できます。この機能を使用すれば、ポータル・ユーザーはページを表示したままで複数のデータ・ビューを比較することができます。

この AlphabloxPortlets.war ファイルは、<alphablox_dir>/installableApps ディレクトリにあります。システム管理者は、WebSphere Portal の管理ユーザー・インターフェースを使用してこのファイルをインストールして、さまざまなデータ・ビューから公開ブックマークを作成し、ポートレットがポータル・ユーザーによってロードされるときにデフォルト・データ・ビューにブックマークを指定できます。

ハイ・アベイラビリティ・クラスタリング

このリリースでは、ハイ・アベイラビリティ・クラスタリングのサポートが追加されました。そのため、クラスタ内の先導ノードが停止またはクラッシュする場合、残りのサーバーから別の先導ノードが動的に選択されます。クラスタは引き続き作動し、ユーザーが作業できるようにします。

Blox UI モデルに基づくプリンター・レンダリング形式

プリンター・レンダリング形式 (render=printer) は、ブラウザーの組み込み印刷機能を使って印刷するうえで最適な Blox データ・ビューを生成します。このリリースでは、プリンター・レンダリング形式が修正されて、DHTML クライアントが作成されたのと同じ Blox UI モデルに基づくビューを生成するようになりました。つまり、カスタム・レイアウト (バタフライ・レイアウト、グリッド・スパーサーなど) を含めて、DHTML クライアント内のデータ・ビューが保持されます。

プリンター・レンダリング形式では、選択されたページ・フィルターが、ディメンション名および選択されたメンバーを含むリストに変換されます。ただし、メニュー・バーとツールバーは、生成されるビューには含まれません。

追加の言語サポート

DB2 Alphablox V8.4 にはトルコ語のサポートが追加されました。

サポートされるすべての言語のリストは、次のとおりです。

- アラビア語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- チェコ語

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- ギリシャ語
- ヘブライ語
- ハンガリー語
- 日本語
- 韓国語
- イタリア語
- ポーランド語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- ロシア語
- スペイン語
- トルコ語

第 2 章 アップグレードおよびマイグレーション情報

アプリケーションを DB2 Alphablox V8.4 にアップグレードまたはマイグレーションする前に、以下に説明されているようなマイグレーションの手順を確認してください。アップグレードについての詳細は、DB2 Alphablox CD の README ファイルも参照してください。V8.3 より前のバージョンからマイグレーションする場合、DB2 Alphablox V8.3 インフォメーション・センターでアップグレードとマイグレーションに関する情報を参照してください。

リポジトリ関連の変更

- リポジトリ用のデータベースを現在使用中で、V8.4 へのアップグレード後に複数クライアント・ロケールをサポートしたい場合には、UTF-8 データベースを使用していることを確認してください。UTF-8 以外のデータベースを使用すると、ユーザーがブックマークを作成するときに 2 バイト文字の問題が発生する可能性があります。
- ファイルに基づくリポジトリを現在使用中で、V8.4 へのアップグレード後に複数クライアント・ロケールをサポートしたい場合には、アップグレード後に <alphablox_dir>/bin ディレクトリ内の NativeConverter.bat または NativeConverter.sh ユーティリティを実行してください。このツールは、リポジトリを文字ベースのエンコードから UTF-8 に変換します。「インストール・ガイド」の中のトピック『複数ロケールをサポートするための DB2 Alphablox リポジトリのマイグレーション』を参照してください。

Microsoft SQL Server 2005 Analysis Services

SQL Server 2005 Analysis Services にアップグレードする場合は、以下のリストのような追加のマイグレーション手順を確認してください。

- MSXML バージョン 6 および SQL Server 2005 Analysis Services 9.0 OLE DB Provider をインストールする必要があります (これらは Microsoft から入手できます)。
- SQL Server 2000 および SQL Server 2005 の両方で Analysis Services に接続するためには、PivotTable Services 8.0 および Analysis Services 9.0 OLE DB Provider の両方をインストールして横並び構成にする必要があります。
- Analysis Services 9.0 OLE DB Provider のインストール後に PivotTable Services 8.0 をインストールした場合、OLE DB for OLAP アダプターを使用するデータ・ソースに関しては、SQL Server 2000 Analysis Services データ・ソースに接続するために **Provider** スtringの最初を MSOLAP.2 にするか、または SQL Server 2005 Analysis Services データ・ソースに接続するために MSLOAP.3 にする必要があります。
- ディメンションで複数の階層を正しくサポートするために、SQL Server 2005 Analysis Services は再構築されました。複数の階層を含むディメンションでは、プロパティ HierarchyUniqueNameStyle が IncludeDimensionName に設定されていなければなりません。これにより、DB2 Alphablox は、論理ディメンションを作成するためにどのディメンションをマージすべきかを判別でき、複数の階層の使用が可能になります。

FastForward のテンプレートに関係した変更

FastForward アプリケーション・フレームワークは、複数のロケールをサポートするように変更されました。FastForward テンプレートに基づいて作成された既存のアプリケーションは、以下に示すマイグレーション・ステップを実行する必要があります。これらのステップには、新しい FastForward Java クラス、サポートされる JSP ファイル、および Blox タグ・ライブラリーをご使用のアプリケーションにコピーすることが含まれます。

DB2 Alphablox V8.4 へのアップグレード後に以下を行います。

1. アプリケーションをバックアップします。
2. DB2 Alphablox がインストールされているシステムの `system/ApplicationStudio/FastForward` ディレクトリーに移動します。
3. FastForward ディレクトリーの下にあるファイルとフォルダー (WEB-INF は除く) を、ご使用のアプリケーションが置かれているディレクトリーにコピーします。
4. `system/ApplicationStudio/FastForward` の下にある WEB-INF ディレクトリーに移動します。
5. `classes`、`src`、`ui`、および `tlds` ディレクトリーを、ご使用のアプリケーションの WEB-INF ディレクトリーにコピーします。

重要: FastForward に基づくアプリケーションが大幅に変更されており、カスタム JSP をオーバーライドできない場合、最低でも以下のステップを実行する必要があります。

1. アプリケーションをバックアップします。
2. DB2 Alphablox がインストールされているシステムの `system/ApplicationStudio/FastForward` ディレクトリーに移動します。
3. `apperror.jsp` および `error.jsp` をご使用のアプリケーションのディレクトリーにコピーします。
4. `system/ApplicationStudio/FastForward` の下にある WEB-INF ディレクトリーに移動します。
5. `classes` および `src` ディレクトリーを、ご使用のアプリケーションの WEB-INF ディレクトリーにコピーします。

これらのステップによってご使用のアプリケーションが損なわれることはありませんが、コードがどの程度カスタマイズされているかに応じて、以下の追加のステップを実行する必要があります。関係する技術情報については、DB2 Alphablox サポート Web サイトを参照してください。

一般的なアプリケーション開発に関連した変更

- Blox ユーザー・インターフェースはクライアントのロケールに基づいて表示されるため、ロケールを設定するカスタム・コードを使用している場合には、今後はそれが必要なくなります。このリリースでは `setLocaleCode()` メソッドが除去されたため、このメソッド、または `localeCode` タグ属性をアプリケーションで使用していないことを確認してください。
- 以前のリリースのクエリー・ビルダー・ツールが使用していた 1 つのメソッドが、このリリースでは除去されました。V8.4 へのアップグレード時にクエリー・

ビルダー・ツールのロードに関連したエラーが発生した場合、以前にコンパイルされたバージョンをアプリケーション・サーバーが使用しています。アプリケーション・サーバーの一時作業ディレクトリーから、クエリー・ビルダー用の一時ファイルを削除する必要があります。こうすれば、アプリケーション・サーバーは新しいバージョンのクエリー・ビルダー用の JSP ファイルを再コンパイルします。

DHTML テーマに関連した変更

- DHTML クライアント・テーマのレイアウト・ストリングは使用が推奨されなくなり、もはやデフォルトで適用されなくなりました。引き続きこれを使用したい場合には、`BloxModel.setApplyThemeLayout()` メソッドを使って明示的に適用する必要があります。
- 双方向の言語をサポートするために、いくつかの CSS テーマ・クラスのデフォルト・スタイル定義が変更されました。これらの変更は、ご使用のアプリケーションに影響を与えないはずですが、スタイル・シートをカスタマイズした場合には、これらの変更によってどのような影響を受けるか確認するために、アプリケーションを検査する必要があります。

テーマ・クラス	スタイルの変更
コンポーネント・ボーダー - 個々の Blox と制御のボーダー: <code>.csCmpBrdr</code>	以下のセル・マージン設定が除去されました: <code>cellmargin: 1px;</code>
対話式ボタン: <code>.csIBtnDprsd</code> 、 <code>.csIBtnDprsdHghlght</code> 、 <code>.csIBtnHghlghtDprsd</code> 、 <code>.tlBtdprsd</code> 、 <code>.csIBtdnrdpDwnDprsd</code> 、 <code>.csIBtdnrdpDwnDprsdHghlght</code>	以下の表示設定が除去されました: <code>display: inline;</code>
水平区切り記号: <code>.hsprtr</code>	以下のマージン、ボーダー、幅、高さの設定が変更されました: <code>margin: 2px 0px 2px 0px;</code> <code>text-indent: 0px;</code> <code>font-size : 0px;</code> <code>width: 100%;</code> <code>border-bottom: 0px;</code> <code>border-left: 0px;</code> <code>border-right: 0px;</code> <code>height: 0px;</code>
ツリー・ノードとリーフ: <code>.csTrNdLb1</code> 、 <code>.csTrLfLb1</code> 、 <code>.csTrNdLb1Slctd</code> 、 <code>.csTrLfLb1Slctd</code> 、 <code>.csTrLfLb1</code>	SPAN エlementがこれらのクラスから除去されました。
カレンダー・コンポーネント: <code>.csClndrBdy</code> 、 <code>.csDys</code> 、 <code>.csWkdy</code> 、 <code>.csTdy</code> 、 <code>.csSmDte</code> 、 <code>.csStDte</code> 、 <code>.csExprd</code>	テキスト配置が変更されました: <code>text-align: center;</code>

DB2 Alphablox Cube Server 関連の変更

V8.4 へのマイグレーション後に既存のキューブ定義を開いた場合、次のような変更が発生します。

- Cube Server のキューブ定義が、以前のリリースから V8.4 にマイグレーションされます。V8.4 の新しいキューブ定義メタデータ機能のために、このマイグレーションは必須です。キューブ定義が DB2 Alphablox によって読み取られるたびに、

自動的にマイグレーションが発生します。キューブ定義を開いて編集した後、これを保管すると、マイグレーション済みのキューブが保管され、それ以降のマイグレーションは必要なくなります。マイグレーション後、キューブ定義内のバージョン番号は 3.0 になります。

- マイグレーション後、各レベルごとに 1 つまたは複数のレベル・キー式が存在するようになります。レベル式と同じレベル・キー式が 1 つ存在します。さらに、それぞれの祖先レベルごとに 1 つのレベル・キー式が存在します (祖先レベルに基づく各キーごとに、祖先のレベル式と同じ式が 1 つ存在します)。マイグレーション後に各レベルに関連付けられるレベル・キー式において、レベル内の各メンバーが固有に定義されない場合には、キューブがもはや開始しなくなります。
- マイグレーション後、各ディメンションは「All」レベルを持ちますが、「All」レベル・メンバー名はブランクになります。キューブ定義内の「All」レベル・メンバー名がブランクの場合、キューブ開始時に Cube Server はメンバー名として「All」に続けてディメンション名を設定します。たとえば、「Products」という名前のディメンションの「All」レベル・メンバー名は「All Products」になります。
- マイグレーション後、すべてのディメンションは **Regular** タイプになります。このため、キューブ定義を再確認して、時間に関連したディメンションのタイプを **Time** に変更することをお勧めします。
- マイグレーション後、すべてのレベルは **Regular** タイプになります。(特に時間ディメンション内のレベルの) レベル・タイプを再確認することをお勧めします。
- マイグレーション後、メンバー・キャッシュはデフォルトで使用不可になります。メンバー・キャッシュが使用不可になると、キューブ開始時にすべてのキューブ・メンバーがメモリーにロードされます。この動作は、以前のリリースと同じです。

第 3 章 対処済みの機能拡張要求

以下のような機能拡張要求が、下記のリリースで対処されました。

- 23060 - ユーザー・インターフェースおよび関連イベントの中で、ソート標識を維持しながらソートをオフにするオプション機能が新たに実装されました。DataBlox に新しく `internalSortEnabled` プロパティ、および `isInternalSortEnabled()` と `setInternalSortEnabled()` の 2 つのメソッドが追加されました。デフォルトは `true` です。このプロパティを `false` に設定した場合、Blox ユーザー・インターフェースにはソート標識が表示されますが、内部ソート機能は使用不可になります。
- 21752 - フォーマット設定された数値を表示する機能が新たに実装されました。Blox ユーザー・インターフェースのデータ・フォーマットは、ブラウザーのロケール設定に基づきます。

第 4 章 対処済みの問題

DB2 Alphablox V8.3 以降に修正された報告済みの問題を、この後のセクションに一覧で示します。修正のために動作方法が新しくなった場合や、さらに詳細な追加情報が入手可能な場合、問題点の末尾に注が付記されています。

アセンブリー・ワークベンチおよび例に関連した修正

- 23329 - 電子メール・サンプルに基づく電子メール添付ファイル内の 2 バイト文字が Internet Explorer で正しく表示されない (HTML として送信される電子メールではこの問題は発生しません)。これは修正されました。

注: 電子メールが添付ファイルとして送信される場合、電子メール読み取りプログラムではなく、ブラウザで表示されます。Internet Explorer の場合、ユーザーが指定したデフォルト・エンコードに基づいてページが表示されます。DB2 Alphablox によって生成される電子メール添付ファイルは明示的に UTF-8 エンコードに設定されますが、ユーザーの側も、自動的にエンコードを選択するようブラウザで設定する必要があります。Internet Explorer でこれを行うには、「表示」→「エンコード」から、「自動選択」をオンにします。エンコードが 2 バイト文字言語に設定されている場合、添付ファイルの文字は依然として正しく表示されません。

- 23102 - マージされたディメンションに対して計算エディターを開くとき、クエリー・ビルダーで `NullPointerException` が発生する。これは修正されました。
- 22013 - メンバー名にコロンまたは中括弧が含まれる場合、計算エディターの「前に配置」設定が機能しない。これは修正されました。

チャート関連の修正

- 23324 - 円グラフの「その他」スライスが、適切なロケールではなく常に英語で表示される。これは修正されました。
- 23116 - ウォーターフォール図の Y1 軸のフォーマット・マスク・セット (`ChartBlox y1FormatMask` プロパティ) が機能しない。これは修正されました。

データ関連の修正

- 23136 - `generateQuery()` メソッドにより、Essbase データ・ソースの動的時系列に関して無効な照会が生成される。これは修正されました。
- 23112 - 複数のキューブが同じディメンションを持つ場合、`selectableSlicerDimension` プロパティが最初以外のキューブ内のディメンションに設定されていれば、`getSelectableSlicerDimension()` メソッドによって常に最初のキューブ内のディメンションが戻される。これは修正されました。
- 22620 - メンバー名にコンマまたはセミコロンが含まれる場合、`setProperty("hiddenMembers")` メソッドが機能しない。これは修正されました。

グリッド関連の修正

- 23099 - リレーショナル・データを扱うグリッド内で選択された複数の列を非表示にできない。リレーショナル・データ・ソースでのみ発生したこの問題は、修正されました。
- 22748 - GridBlox が短く、グリッド・スペースが限られている場合、水平/垂直スクロール・バーが表示されないことがある。スクロール・バーが表示される場合でも、最後の行または列までスクロールできない。この問題は修正されました。

注: スクロール・バーの領域が小さすぎてスクロール・ボタンとスクロール・バーの両方を表示できない場合、ボタンが自動的に除去されて、ほとんどの場合に最後の行または列までスクロールできるようになりました。Firefox では、データ行を表示し続けるためのグリッドの大きさに関して、引き続き制限があります。これは Firefox の制限事項です。

一般的な DHTML クライアントおよび UI コンポーネントに関連した修正

- 23319 - 中国語 (簡体字) では、「ブックマークの編成 ...」ダイアログのタイトルに疑問符 (?) が含まれる。これは修正されました。
- 23079 - 圧縮レイアウト (<bloxui:compressLayout>) のグリッドの「すべて再表示」を選択すると、ArrayIndexOutOfBoundsException 例外が発生する。これは修正されました。
- 23067 - (メニュー・バーの「編集」 → 「履歴」を選択して) 「元に戻せる操作の履歴」ダイアログで「OK」を 2 度クリックすると、NullPointerException が発生する。これは修正されました。
- 23014 - 「編集」 → 「すべて選択」を選択した後、「編集」 → 「コピー」メニュー項目が選択不可になる。これは修正されました。
- 22920 - DHTML の CheckBox.setStyle(new Style(true,false,false)) メソッドを呼び出しても、CheckBox の横のタイトル・テキストのスタイルが設定されない。これは修正されました。
- 22905 - 展開/省略モード (expandCollapseMode="true") でのグリッド内のドラッグ・アンド・ドロップ動作が一貫しない。これは修正されました。

Alphablox Cube Server 関連の修正

- 23355 - 算出メンバーを含む Alphablox Cube Server キューブ用の PageBlox にスライサーを追加すると、com.alphablox.util.NotFoundException が発生する。これは修正されました。
- 23211 - リレーショナル・キューブをドリルダウンするとき、戻された結果が、DB2 Alphablox 管理ページで指定された最大行数と最大列数の設定値を超える場合、メモリー不足例外が発生する。これは修正されました。

注: DB2 Alphablox は、メモリー不足状態のリスクを削減するために、結果セットの構築前に最大行数と最大列数の指定内容を強制的に実施します。抑制が有効になっている場合、行や列が抑制される前に、結果セットのサイズに対して制限が実施されます。

- 23199 - キューブ名に特定の漢字 (中国語の文字) が含まれている場合、サーバーの開始時にキューブが自動的に開始しない。これは修正されました。

ReportBlox に関連した修正

- 22933 - PdfBlox logoSource プロパティーが機能しない。これは修正されました。

注: イメージの場所を指定するとき、絶対パスまたは相対パスを指定できます。絶対パスとは、ファイル・システムにおけるイメージの場所を示すパスです。たとえば、

logoSource="file:///C:\\alphablox\\webapps\\images\\logo.gif"です。パスにはバックslash・エスケープが必要であることを注意してください。相対パスとは、DB2 Alphablox インストール場所から見た相対的な場所を示すパスです。たとえば、logoSource="/repository/theme/logo.gif" です。

プラットフォーム関連の修正

- 23342 - 先導ノード上の Telnet コンソールから set コマンドを使用して既存のデータ・ソースのパラメーターを変更した後、クラスターを再始動しない限り、DB2 Alphablox は通常のノードからそのデータ・ソースに接続できなくなる。これは修正されました。
- 23316 - グリッド内でヘブライ語文字が右揃えにならない。これは修正されました。
- 23150、23122 - クラスターの先導ノードが停止または異常終了した場合、クラスター内の他のノードも停止する。これは修正されました。
- 23082 - WebLogic 8.1.4 で複数の Blox タグを使用した場合、java.lang.NullPointerException が生成される。これは修正されました。
- 22917、22855 - bloxContext.deleteBlox() を使って PresentBlox を削除しても、内部の Blox が削除されない。これは修正されました。

注: このメソッドは ReportBlox に対しても機能します。

- 22904 - DB2 Alphablox が WebSphere Secure Sockets Layer (SSL) の背後にインストールされる場合、ユーザーは DB2 Alphablox との通信の障害を知らせるエラーを受け取る。これは修正されました。

資料に関連した修正

- 23336 - Cell.getDoubleValue() は記述されているようには java.lang.NumberFormatException を生成しない。これは Javadoc 資料で修正されました。NumberFormatException はスローされなくなりましたが、後方互換性のために引き続き宣言されます。
- 23208 - GridBlox rowHeadingsVisible="false" プロパティーによってグリッド内の行ヘッダーが非表示にならない。このプロパティーに関する資料が不正確でした。rowHeadingsVisible プロパティーは行ヘッダーの可視性ではなく、行ヘッダーの上の行ディメンション名の可視性を定義します。これは修正されました。

- 22864 - 「インストール・ガイド」の中の Microsoft IIS インストール後に関する情報は Tomcat だけに該当するが、IIS v6 の一般的なインストール後情報のセクションに入っている。この情報が修正され、Tomcat だけに当てはまることが明記されました。さらに、WebSphere および WebLogic ユーザーはそれぞれの資料を参照するように明記されています。

第 5 章 既知の問題と対処法

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.4 とそれに組み入れられたアプリケーションの操作上の問題について説明します。可能な限り、予備手段としての対処方法の指示が記載されています。特定の問題の詳細については DB2 Alphablox テクニカル・サポートに問い合わせる際には、DB2 Alphablox トラッキング番号を使用してください。DB2 Alphablox 8.4 アプリケーションの実行中に、特定の Web サーバーまたは Web ブラウザーに関連した問題が発生することがあります。それらの問題のいくつかは IBM で認識されているので、それに対する対処法を提供できる場合があります。アプリケーションに影響を与える Hyperion Essbase および Microsoft Analysis Services の既知の問題もあります。詳しくは、26 ページの『既知のデータ・ソースの問題と対処法』を参照してください。

Tomcat 上の既知のインストール問題

このセクションでは、DB2 Alphablox V8.4 リリースにおける Tomcat へのインストールに関する既知の問題と対処法の一覧を示します。

トラッキング番号	説明	対処法
22863	Tomcat 3.2.4. を使用している場合、IBM JDK v1.4.2 の最新バージョン (Windows/IA32 1.4.2 Service Release 2、cn142-20050609) が機能しない。	代わりに、1.4.2 GA リリース・バージョン (Windows/IA32、cn1420-20040626) を使用してください。
21217	スペースが使用されているディレクトリーに Tomcat がインストールされている場合、DB2 Alphablox サービスが稼働しません。	スペースが使用されたディレクトリーに Tomcat をインストールすると、Tomcat NT サービスが正しく稼働しません。 対処法: Tomcat インストール・ディレクトリー名を変更してください。

資料のインストールに関する既知の問題

このセクションでは、DB2 Alphablox 資料インストーラーに関する既知の問題と対処法をリストします。

トラッキング番号	説明	対処法
23216	カーネル 2.6 を実行する Linux で資料インストーラーが機能しない	<p>DB2 Alphablox 資料インストーラーを使用するには、IBM JRE 1.4.2 が必要です。この JRE バージョンは、以下の配布ライブラリーを必要とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • compat-libstdc++-33-3.2.3 および xorg-x11-deprecated-libs-6.8.1 (Intel® Architecture、PPC、および PPC64) • compat-libstdc++-295-2.95.3 および xorg-x11-deprecated-libs-6.8.1 (zSeries®) <p>Linux システム上で資料インストーラーを実行中に、インストーラーをグラフィック・モードで実行できないことを示すエラー・メッセージが表示された場合には、必要なライブラリーを配布 CD からインストールする必要があります。</p>

インストールに関する一般的な問題

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.4 リリースでの一般的な注意事項とインストール上の問題の一覧を示します。

トラッキング番号	説明	対処法
19134	Alphablox 4 または 5 から DB2 Alphablox にアップグレードして WebSphere または WebLogic Application Server を使用しているときに、現在のリポジトリーが Application Server 接続プーリング・データ・ソースである場合、アップグレード後に DB2 Alphablox はデータ・ソース・タイプを通常 (非接続プール) データ・ソースにリセットします。	リポジトリー変換ユーティリティーを実行して、Web アプリケーション・サーバー接続プーリング・データ・ソースの使用を再び活性化してください。

既知のプラットフォームの問題

このセクションでは、一般的なプラットフォームの問題を説明するとともに、DB2 Alphablox 8.4 に関連した既知の問題と対処法を表に示します。

ユーザー・インターフェース

トラッキング番号	説明	対処法
18795	グリッド上に複数の算出メンバーがある場合、メンバー・フィルターを立ち上げて、メンバーを再配列することができる。算出メンバーを順番に配置する場合に、calculatedMembers プロパティに指定したものと異なる順序で配置すると、メンバーは再配列されず、calculatedMembers プロパティに指定した順序が保持される。	希望する順序を反映するように、calculatedMembers プロパティを変更してください。

チャート作成

トラッキング番号	説明	対処法
22452	SAP BW および Microsoft Analysis Services ランタイム算出メンバーが、3D 棒グラフに表示されない。	3D チャートには、照会内の最も低い世代のメンバーのみが表示されます。OLE DB for OLAP ランタイム算出メンバーの世代のレベルは 1 (最も高いレベル) であるため、3D チャートには表示されません。対処法はありません。

CommentsBlox

トラッキング番号	説明	対処法
19355	10 を超えるディメンションのある Comments Collection から、Comments を伴うセルの入った GridBlox を表示すると、DB2 UDB データ・ソースで障害が起きる。	10 以内のディメンションにインデックスを抑えるため、どのインデックスをドロップできるかを識別してください。アプリケーションが、アクセスしているディメンションによって分離できるのであれば、別のコメント・コレクションを作成することもできます。
17873	DB2 Alphablox が WebSphere または WebLogic の背後にインストールされている場合、アプリケーション・サーバーによって提供される Oracle Connection Pooling データ・ソースに対して Comments コレクションを保管しようとする、Comments Collection は正しく保管されない。	アプリケーション・サーバーが提供する Connection Pool データ・ソースを使用する代わりに、DB2 Alphablox の管理ページで作成されるデータ・ソースを使用して接続してください (例: 「管理」タブ -> 「データ・ソース」)。
17200	PresentBlox でコメントを使用可能にする場合、ネストされた <pre><blox:grid ... commentsEnabled="true" .../></pre> タグが <blox:data ...> タグの後ろに現れると、コメントは正しく使用可能にならない。	<pre><blox:grid ... commentsEnabled="true" .../></pre> タグを、<blox:data ...> タグの前に置いてください。

データ・マネージャーおよびデータ接続

トラッキング番号	説明	対処法
23212	SQL Server 2005 Analysis Services データ・ソースでの不ぞろい階層のドリルダウンの障害	SQL Server 2005 Analysis Services では、Microsoft Analysis Services 2000 と比べて、不ぞろい階層に対するプロバイダー・ストリング・パラメーター MDX Compatibility=2 の機能が異なります。Microsoft はこの問題の存在をすでに確認し、サービス・パック 1 で修正予定であると発表しました。
23144	SQL Server 2005 Analysis Services において、Microsoft はドリルスルー機能を再構築しました。ドリルスルー操作により、リレーショナル表の列名から作成される高度にテクニカルな列ヘッダーが戻されるようになりました。	ReportBlox に基づくリレーショナル・レポートで、TextBlox columnHeader タグを使用して、これらの列名をユーザーにわかりやすい名前に変更してください。

DHTML クライアント

トラッキング番号	説明	対処法
21609	Blox を含むウィンドウを Javascript window.open() 呼び出しで開いた場合、このウィンドウを閉じるときに、ウィンドウから起動したダイアログは自動的に閉じず、開いたままになる。	以下の例のようなコードを追加すると、問題が修正されます。 <pre><script> window.onbeforeunload = function(){ presentBlox.closeAllDialogs(); } </script></pre>
20702	Internet Explorer v5.5 では、CSS を介してブラウザーのネイティブ・スクロール・バーの色とスタイルをカスタマイズすると、メニュー項目、ツールバー、またはツールバー・ボタンの上を移動したときに、PresentBlox 内の格子とチャートが PresentBlox 表示域の下部に移動する。	これは、Internet Explorer v5.5 のみで発生する問題であり、v6 の問題ではありません。Internet Explorer 独自の CSS 技法を使用しないようにするか、または、ブラウザーが Internet Explorer v5.5 でないときのみカスタム・スタイルを適用してください。
20813	データ・セル、列ヘッダー、および行ヘッダーの GridBlox のボーダー色を <themeName>_DHTML.css 内で設定してから、Blox を PDF にエクスポートすると、GridBlox 全体の背景色も一緒に変更される。	なし。表のボーダーの設定は、Microsoft の属性です。このプロパティに適用される共通の標準はなく、基礎となる PDF エンジンではこの属性がサポートされていません。 http://msdn.microsoft.com の『border-color Attribute borderColor Property』の文書を参照してください。
19068	Internet Explorer の「ツール」>「インターネット オプション」メニューで、「全般」>「インターネット一時ファイル」>「設定」パネルの「保存しているページの新しいバージョンの確認」オプションの設定を、デフォルト値の「自動的に確認する」から「ページを表示するごとに確認する」に変更すると、まれにブラウザーが列を不正確に描画することがある。	設定をデフォルト値の「自動的に確認する」のままにしてください。これは、Internet Explorer の問題です。

トラッキング番号	説明	対処法
17281	!DOCTYPE エlementを変更して Strict 宣言を指定すると (例えば、<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.0 Strict//EN">)), グリッドの表示が不正確になる。	!DOCTYPE エlementを指定しないか、あるいは Transitional または Frameset 宣言を使用してください。

FastForward

トラッキング番号	説明	対処法
16790	複数の FastForward Administrator がテンプレートを同時に更新すると、最後に保管された変更が以前の変更を上書きする。	なし。
16052	FastForward テンプレートは、リレーショナル・キューブに対しては作動しない。	なし。

DB2 Alphablox Cube Server

トラッキング番号	説明	対処法
23499	ディメンション内のメンバーがディメンションと同じ名前を持つ場合に、DB2 Alphablox Cube Server キューブを照会すると問題が発生する。	どのレベルのメンバーもディメンションと同じ名前にならないようにする必要があります。たとえば、ディメンション名が "All Markets" である場合、すべてのレベルのメンバー名が "All Markets" とならないように設定する必要があります。名前の競合が起きないようにディメンション名かすべてのレベルのメンバー名を変更してください。

リレーショナル・レポート

トラッキング番号	説明	対処法
22350	双方向言語の場合に Blox を右から左へレンダリングすると、パーセンテージ符号 ("%") などの RTL 以外の文字 (Unicode 標準で定義済みのもの) の位置が変わることがあり、そのため、レンダリング後の出力が、ブラウザに表示されたものと異なる場合がある。	現時点で対処法はありません。現在、PDF レンダリング・エンジンでは、Unicode の両方向アルゴリズムがサポートされていません。
19211	障害 #19186 の解決のため、リレーショナル・レポートでのソート・オプションのトグルは、ソートを昇順で行うか、降順で行うかだけを切り替える。ソート中に欠落値を先頭と末尾のどちらに配置するかを決定するフラグを、isAscending フラグに一致するように変更することはもはやない。	なし。

トラッキング番号	説明	対処法
18997	リレーショナル・レポートで、ページ上でグループ化操作を実行した後にブラウザの「戻る」ボタンを使用すると、レポートの最初のメンバーでグループ化操作が繰り返される。	なし。

PDF のレンダリング

トラッキング番号	説明	対処法
22916	ページが PDF にエクスポートされる場合、ページ・フィルターのドロップダウン・リスト内の組み込み HTML エスケープ・コードが HTML エスケープ・コードとして表示される。	HTML エスケープ・コードの代わりに Unicode 表記 (\uXXXX) を使用します。たとえば、負符号 (-) を表すには - ではなく \u002d を使用します。
22350	双方向言語の場合に Blox を右から左へ (RTL) レンダリングすると、レンダリング後の出力中で、パーセンテージ符号 ("%") などの RTL 以外の文字 (Unicode 標準で定義済みのもの) の位置が変わることがある。その結果、PDF 出力が、ブラウザに表示されるものと異なる場合がある。	現時点で対処法はありません。現在、PDF レンダリング・エンジンでは、Unicode の両方向アルゴリズムがサポートされていません。RTL 以外のどの文字がレンダリング後の出力で位置が変わるかは、ブラウザのバージョン、およびそれによってサポートされる Unicode 規格のバージョンに応じて異なります。
17294	WebLogic の背後にインストールしており、WebLogic Server のロギング・レベルを INFO に設定している場合、PDF 生成のときにコンソール上でソケット例外が発生することがある。	このメッセージは無視して構いません。
13617	Web サーバーの背後で DB2 Alphablox を実行しているときに PDF へのレンダリングを使用するためには、完全修飾ホスト名を使用しなければならない。	なし。

サーバー・サイド・プログラム

トラッキング番号	説明	対処法
19213	setBookmarkFilter および getBookmarkFilter メソッドは、Blox クラスの com.alphablox.blox.Blox から ViewBlox および DataBlox へ移動された。	これらのメソッドは引き続き DataBlox で使用可能であり、すべてのデータ・プレゼンテーション Blox (ChartBlox、DataLayoutBlox、GridBlox、PageBlox、および PresentBlox) は既存のアプリケーションに影響を及ぼしません。ただし、データ・プレゼンテーション Blox を、これら 2 つのメソッドを使用する Blox オブジェクトに型キャストするコードがある場合は、コードの変更が必要です。

トラッキング番号	説明	対処法
18608	メンバー・フィルターでの選択のいずれかが "Descendents of <member>" などの関数呼び出しである場合、MemberSelectEvent.getNewMemberSelections メソッドは NULL を返す。	JSP でヌル・ポインター例外が起きないようにするため、このメソッドからの NULL 戻り値を検査し、それに応じた処理を行ってください。
13782	タグ属性 AASUserAuthorizedEnabled を使用して AASUserAuthorizedEnabled プロパティにアクセスできない。これは、blox.tld に、プロパティ AASUserAuthorizationEnabled の間違っ項目が含まれているためである。	JSP タグを使用して AASUserAuthorizationEnabled プロパティにアクセスする際、タグ属性 useAASUserAuthorization を代わりに使用する必要があります。
12380	メソッド waitOnBusy() は、DataBlox から呼び出されたときは作動しない。	可能な場合、代わりに waitOnBusy() をデータ・プレゼンテーション Blox (例えば、ChartBlox、GridBlox、PresentBlox) から使用してください。

Telnet コンソール

トラッキング番号	説明	対処法
21048	DB2 Alphablox の Telnet セッションでは、Telnet クライアントとの通信に UTF-8 が使用される。Windows には、エンコードを UTF-8 に設定する機能がない。その結果、Windows のネイティブの Telnet コンソールは、中国語や日本語などの 2 バイト文字を実行するシステム上で正しく表示されない。	PuTTY などの代替 Telnet クライアントを使用してください。

WebLogic

トラッキング番号	説明	対処法
18853	IIS を Web サーバーとし、NTLM を認証方式として WebLogic の背後で DB2 Alphablox を実行することは、サポートされる構成である。ただし、「ユーザー」タブを通してユーザーに役割を追加しようとした場合、その役割は適用されない。	そのためには、「役割」タブを使用できます。「役割」タブに移動して、任意の役割 (例えば AlphabloxAdministrator) を選択してください。任意のユーザーを、「選択可能なユーザー (Available Users)」列から「メンバー・ユーザー (Member Users)」列に移動してください。

WebSphere

トラッキング番号	説明	対処法
17894	DB2 Alphablox が WebSphere 5 の背後にインストールされている場合、DB2 Alphablox ホーム・ページの「管理」タブ > 「アプリケーション」ページから、既存アプリケーションのある種のアプリケーション・パラメーターを編集すると、アプリケーションは即時には更新されない。	アプリケーション・パラメーターを編集して変更を保管すると、単に新しい .ear ファイルが再作成されます。 WebSphere Administration ツールを介してこのアプリケーションを「更新」して、変更内容を使ってアプリケーションを再デプロイする必要があります。

DB2 Alphablox 一般

トラッキング番号	説明	対処法
13750	IIS: DB2 Alphablox が IIS の背後で実行される場合、クライアントが JSP ファイルから DB2 Alphablox と通信できない	アプリケーションを外部 Web サーバーに登録する手順は、「管理者用ガイド」 > 「アプリケーション定義」 > 「外部 Web サーバーにアプリケーションを登録するための手順」に説明されています。

既知のデータ・ソースの問題と対処法

このセクションでは、DB2 Alphablox 8.4 に影響を与える DB2 OLAP Server™、Hyperion Essbase、および Microsoft OLAP Service の既知の問題を取り上げます。DB2 OLAP Server および Hyperion Essbase の問題を一覧で示し、それぞれの問題の詳細、例、および対処法を、可能な限り記述します。一部の問題については、テクニカル・サポートに連絡して詳細情報を得る場合の参照のために、トラッキング番号が括弧内に付けられています。DB2 Alphablox と Hyperion のトラッキング番号は、該当する場合、その旨明示されています。また、最新の Essbase パッチの詳細については、Hyperion Technical Support の Web サイトにアクセスすることもできます。

DB2 OLAP Server と Hyperion Essbase の既知の問題

このセクションでは、DB2 OLAP Server および Hyperion Essbase データベースの既知の問題の一覧を示します。

- AIX® システムでは、ESSLANG 変数は常に英語に設定されます。その設定は Essbase サーバーの設定に一致する必要がありますが、その情報をプログラマチックに取得する方法はないので、DB2 Alphablox を開始する前に、`essbasesetup.sh` 内にロケールを手動で設定する必要があります。`essbasesetup.bat` ファイルは、`<db2alphablox_dir>/bin` 内に置かれています。たとえば、ロケールを日本語に設定するには、ESSLANG 変数を `Japanese_Japan.JapanEUC@Binary` に設定することができます。ただし値ストリングの書式は、`<language>_<territory>.<code page name>@<sortsequence>` です。ロケールの仕様に関する詳細は、DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase のデータベース管理者用のガイドを参照してください。

- Hyperion Essbase Deployment Services (EES) 経由で Essbase データ・ソースに接続する場合、Essbase のネイティブのドリルスルー・レポートの数値が誤ってストリングとして戻されます。これは Hyperion の問題です。予備手段として、EES を迂回し、ネイティブな方法で Essbase に接続してください。(Hyperion ケース #370427、DB2 Alphablox トラッキング #18668)
- Essbase `essbase.cfg` 構成ファイルで、`SSLOGUNKNOWN` プロパティがデフォルト値から `FALSE` に変更されている場合に、ブックマークを検索すると、もう存在しないメンバーが一括表示に表示されることがあります。この問題を回避するには、`SSLOGUNKNOWN` プロパティをデフォルト値の `TRUE` のままにしておきます。そうすれば、DB2 Alphablox は問題を検出し、適切なエラー・メッセージを戻します。(DB2 Alphablox トラッキング #17941)。
- クエリー・ビルダーを使用して Essbase データ・ソースに対する照会を構成する際に、数値 (例えば 400) として表示される算出列名を使用すると、算出列エラーが戻されます。予備手段として、算出列を非数値に名前変更してください。(DB2 Alphablox トラッキング #14491)。
- メンバーに対して `{RENAME}` コマンドを使用すると、グリッド内の対話性が失われます (ドリルダウンできません)。また、ページ軸内のメンバーに対する変更はいずれも無視され、名前変更されたメンバーはチャートに表示されません。(DB2 Alphablox トラッキング #12591)。
- レポート仕様に `ORDERBY` コマンドを使用すると、コマンドで区切られた個別のメンバーのリストとしてではなく、連結されたストリングとしてメンバーが戻されます。これはエラーの原因になります。Hyperion ケース #120488。
- レポート仕様で `{ PRINTROW "n" }` を `<PAGE` メンバー文節と共に使用すると、エラーが発生します。Hyperion ケース #183804。

Microsoft Analysis Services の既知の問題

特定の接続ストリングを使用して接続する場合

DB2 Alphablox から MSAS データ・ソースへの接続での既知の問題があります。それは、以下の例のように接続ストリングを設定したときに、DB2 Alphablox をサービスとして開始すると発生します。

```
MSOLAP;Execution Location=3;Client Cache Size=0;
```

この変更は、MSAS データ・ソース定義用の Alphablox 管理ページにある Provider フィールドを変更することによって行われます。DB2 Alphablox をコンソール・アプリケーションとして開始することをお勧めします。しかし、それをサービスとして開始する必要がある場合は、以下の指示に従ってください。DB2 Alphablox を接続するためには、DB2 Alphablox Service を開始するログオン・アカウントを変更する必要があります。そうしないと、無効パラメーター・エラーが出されます。

1. コントロール・パネルから「管理ツール」フォルダーをオープンし、「サービス」を選択します。
2. DB2 Alphablox サービス用のプロパティを表示します。
3. 「ログオン」タブを選択し、「このアカウント」ラジオ・ボタンを選択します。
4. ドメイン・アカウントを選択します。このドメイン・アカウントでは、ローカル・セキュリティーの設定が「サービスとしてログオン」になっている必要があります。そうになっていない場合は、コントロール・パネルから「管理ツール」フ

フォルダーをオープンし、「ローカル・セキュリティ・ポリシー」を選択して、このドメイン・アカウントに必要な権限を与えてください。

これで、DB2 Alphablox は MSAS データ・ソースと接続することができますが、データ・ソースへの接続に使用されるユーザー名とパスワードは前述のドメイン・アカウントになります。これは既知の問題であり、調査中です。

OLAP Service と認証

Microsoft Analysis Services は、Windows ベースの認証を使用します。Microsoft SQL Server OLAP Service にアクセスする DB2 Alphablox アプリケーションで Windows ベースの認証を使用するには、DB2 Alphablox から Microsoft OLAP Service に渡される userName およびパスワード・プロパティーが Windows のユーザーとパスワードでなければなりません。

DB2 Alphablox および Microsoft SQL Server OLAP Service がそれぞれ異なるドメイン内にある場合、それらは信頼された Windows ドメインでなければなりません。

OLAP Service や Analysis Services にアクセスするように Windows マシンをセットアップする場合の詳細は、「管理者用ガイド」を参照してください。

別のロケールのユーザーとしてのインストール

ログインするユーザーのロケールがマシンのロケールと異なるようなマシンでインストールしている場合、MDAC コンポーネントがインストールされているかどうかを DB2 Alphablox は正しく判別できません。この問題が発生した場合は、ロケールをマシンのロケールに合わせて設定してください。(DB2 Alphablox トラッキング #13294)

第 6 章 除去された機能およびプラットフォーム・サポート

このリリースでは、以下の機構の使用が推奨されなくなり、除去されました。

- Java クライアント
- HTML リンク・クライアント (つまりシン・クライアント)
- SmartCacheBlox
- StatusBlox
- SpreadsheetBlox
- DB2 Alphablox 管理ページのアプリケーション定義ページの **Automatic Save Enabled** オプション

以下のプラットフォームはサポートされなくなりました。

- Solaris 8
- WebSphere Portal 5.1.0 および 5.1.0.1
- AIX 5.1 (32 ビットおよび 64 ビット)
- SunOne (iPlanet) 4.1

V5 以降、DHTML クライアントが使用可能になり、DHTML クライアントは柔軟性と拡張性に優れているため、Java クライアントおよびシン・クライアントはこのリリースで使用が推奨されなくなり、除去されました。また、SmartCacheBlox および StatusBlox は Java クライアントだけに適用されるため、これらも除去されました。除去されたメソッドに関する詳細リストについては、『除去された Blox メソッド』および Blox API 変更リスト (Javadoc 形式) を参照してください。

除去された Blox メソッド

Java、リンク、または HTML クライアントのみに適用される Blox メソッドが除去されました。関連していた Blox ごとに分類して、そのようなメソッドを一覧で示します。

AbstractBlox 用の一般的な Blox メソッド

AbstractBlox 用の以下のメソッドが除去されました。なお、AbstractBlox を継承する AdminBlox、BookmarksBlox、CommentsBlox、ContainerBlox、DataBlox、RepositoryBlox、ResultSetBlox、および StoredProceduresBlox にもこれらの変更点が適用されます。

- getClassid(), setClassid()
- getCodebase(), setCodebase()
- getType(), setType()
- isMayscriptEnabled(), setMayscriptEnabled()
- updateProperties()

DataViewBlox 用の一般的な Blox メソッド

DataViewBlox 用の以下のメソッドが除去されました。なお、DataViewBlox を継承する ChartBlox、DataLayoutBlox、GridBlox、MemberFilterBlox、PageBlox、および PresentBlox にもこれらの変更点が適用されます。

- `getBorder()`, `setBorder()`
- `getBorderTitle()`, `setBorderTitle()`
- `getLocaleCode()`, `setLocaleCode()`

ChartBlox

- `getChartFrameRectangle()`, `setChartFrameRectangle()`
- `getFootnoteRectangle()`, `setFootnoteRectangle()`
- `getLegendRectangle()`, `setLegendRectangle()`
- `getPieFrameRectangle()`, `setPieFrameRectangle()`
- `getSubtitle()`, `setSubtitle()`
- `getSubtitleRectangle()`, `setSubtitleRectangle()`
- `getSubtitleStyle()`, `setSubtitleStyle()`
- `getTitleRectangle()`, `setTitleRectangle()`
- `getToolbarPosition()`, `setToolbarPosition()`
- `isLegendWrapped()`, `setLegendWrapped()`
- `getWindowStyle()`, `setWindowStyle()`

DataBlox

- `getConsoleMessageLevel()`, `setConsoleMessageLevel()`
- `getControlStyle()`, `setControlStyle()`
- `getEventBookmarkDelete()`, `setEventBookmarkDelete()`
- `getEventBookmarkLoad()`, `setEventBookmarkLoad()`
- `getEventBookmarkRename()`, `setEventBookmarkRename()`
- `getEventBookmarkSave()`, `setEventBookmarkSave()`
- `getEventDrillDown()`, `setEventDrillDown()`
- `getEventDrillUp()`, `setEventDrillUp()`
- `getEventError()`, `setEventError()`
- `getEventFilterChanged()`, `setEventFilterChanged()`
- `getEventHideOnly()`, `setEventHideOnly()`
- `getEventKeepOnly()`, `setEventKeepOnly()`
- `getEventPivot()`, `setEventPivot()`
- `getEventRemoveOnly()`, `setEventRemoveOnly()`
- `getEventShowAll()`, `setEventShowAll()`
- `getEventShowOnly()`, `setEventShowOnly()`
- `isThinApplet()`, `setThinApplet()`

DataLayoutBlox

- getWindowStyle(), setWindowStyle()

GridBlox

- getCellBandingStyle(), setCellBandingStyle()
- getCellMenuItemName(), setCellMenuItemName()
- getCellStyle(), setCellStyle()
- getColumnHeadingStyle(), setColumnHeadingStyle()
- getDataColumnsPerPage(), setDataColumnsPerPage()
- getDataRowsPerPage(), setDataRowsPerPage()
- getEventAddComments(), setEventAddComments()
- getEventCellMenuItem(), setEventCellMenuItem()
- getEventDisplayComments(), setEventDisplayComments()
- getEventEditCellEnd(), setEventEditCellEnd()
- getEventEditCellStart(), setEventEditCellStart()
- getEventHeaderLink(), setEventHeaderLink()
- getEventHeaderMenuItem(), setEventHeaderMenuItem()
- getEventMemberClick(), setEventMemberClick()
- getEventTriggerDrillThrough(), setEventTriggerDrillThrough()
- getGenerationStyle(), setGenerationStyle()
- getHeadingStyle(), setHeadingStyle()
- getRowHeadingStyle(), setRowHeadingStyle()
- getToolBarPosition(), setToolBarPosition()
- isAlwaysShowLastColumn(), setAlwaysShowLastColumn()
- isAlwaysShowLastRow(), setAlwaysShowLastRow()
- isHidePlusMinus(), setHidePlusMinus()
- isHtmlColumnHeadersWrapped(), setHtmlColumnHeadersWrapped()
- isHtmlShowFullTable(), setHtmlShowFullTable()
- isPaginate(), setPaginate()
- isToolBarFloatable(), setToolBarFloatable()

PageBlox

- getPagePanelType(), setPagePanelType()
- getToolBarPosition(), setToolBarPosition()

PresentBlox

- getDataLayoutMaxWidth(), setDataLayoutMaxWidth()
- getToolBarPosition(), setToolBarPosition()
- getWindowStyle(), setWindowStyle()
- isIBarVisible(), setIBarVisible()
- isToolBarFloatable(), setToolBarFloatable()

RepositoryBlox

- delete3x()
- getConsoleMessageLevel(), setConsoleMessageLevel()
- getUsersGroups()
- isThinApplet(), setThinApplet()
- list3x()
- load3x()
- loadBytes3x()
- rename3x()
- save3x()
- search3x()

ToolbarBlox

- getAppletList(), setAppletList()
- isButtonBordered(), setButtonBordered()

FormBlox 用の FormPropertyLinkException

- getNestedException(), setNestedException()

除去されたリポジトリ関連メソッド

このセクションでは、このリリースで除去されたすべてのリポジトリ関連メソッドを一覧で示します。

com.alphablox.blox.repository.Application

- isAutosave()
- isHtmlLinks()

com.alphablox.blox.repository.Server

- getClientBuildVersion()
- getClientIncrementVersion()
- getClientMajorVersion()
- getClientMinorVersion()
- getClientVersion()
- getMinimumClientBuildVersion()
- getMinimumClientIncrementVersion()
- getMinimumClientMajorVersion()
- getMinimumClientMinorVersion()
- getMinimumClientVersion()

Blox UI モデルから除去されたメソッド

このセクションでは、このリリースで除去された Blox UI モデル (com.alphablox.blox.uimodel.* パッケージ) 内のメソッドを一覧で示します。

BloxController

- `actionFileExportToPDF_FOP()`
- `applyBorderTitle()`
- `applyToolBarFloatable()`

PageBrixController

- `applyPagePanelType()`

除去された定数フィールド値

このリリースで除去された定数フィールド値を、それぞれ関連していた Blox ごとに分類して示します。また、Blox UI モデルのフィールドもリストされています。

AbstractBlox

- `RENDER_HTML`
- `RENDER_JAVA`

RepositoryBlox

- `VISIBILITY_PUBLIC` (代わりに `RepositoryBlox.VISIBILITY_APPLICATION` を使用します)

Blox UI モデル内のチャート作成パッケージ

軸:

- `labelLayoutMap`

BarDataSeries:

- `barStyleMap`
- `dataLabelPositionMap`

ChartGrid:

- `lineLayoutMap`
- `lineTypeMap`

ChartFillPattern:

- `fillTypeMap`
- `imageModeMap`

ChartLineSeries:

- `lineTypeMap`

ChartModelConstants:

- `imageModeMap`
- `lineTypeMap`

ChartRegionStyle:

- `borderStyleMap`

- imageModeMap

ChartSymbol:

- shapeMap
- styleMap

Dial:

- borderTypeMap
- ticPositionMap

DialNeedle:

- needleTypeMap

凡例:

- legendLayoutMap
- legendPositionMap

LineDataSeries:

- lineTypeMap

第 7 章 使用すべきでない API

このセクションでは、除去された機能、および使用すべきでないプロパティ、メソッド、クラス、インターフェース、フィールドの一覧を示し、使用すべきでない機能の代替機能を示します。

使用すべきでない API は、ある限定された期間中はサポート対象ですが、製品の戦略的な方向付けにはもう関与しません。IBM では、可能な限り速やかに使用を停止することをお勧めします。使用すべきでない API が DB2 Alphablox で検出されるたびに、警告メッセージがブラウザ・コンソールに表示されます。そのメッセージを利用して、変更を必要とするアプリケーション・ページを特定してください。

IBM ソフトウェア・サポート・ライフサイクルのポリシーについては、IBM Software Support Lifecycle の Web サイト

(<http://www.ibm.com/software/info/supportlifecycle/index.html>) をご覧ください。

使用すべきでない API

以下の表は、このリリースで使用が推奨されないメソッドをリストしています。

使用すべきでないメソッド	新メソッド
イベント事前処理 (イベント・フィルター): <ul style="list-style-type: none">• addBookmarkDeleteFilter()、removeBookmarkDeleteFilter()• addBookmarkLoadFilter()、removeBookmarkLoadFilter()• addBookmarkRenameFilter()、removeBookmarkRenameFilter()• addBookmarkSaveFilter()、removeBookmarkSaveFilter()• addCollapseFilter()、removeCollapseFilter()• addDrillDownFilter()、removeDrillDownFilter()• addDrillThroughFilter()、removeDrillThroughFilter()• addDrillUpFilter()、removeDrillUpFilter()• addExpandFilter()、removeExpandFilter()• addHideOnlyFilter()、removeHideOnlyFilter()• addHideOnlyFilter()、removeHideOnlyFilter()• addKeepOnlyFilter()、removeKeepOnlyFilter()• addMemberSelectFilter()、removeMemberSelectFilter()• addPivotFilter()、removePivotFilter()• addQueryFilter()、removeQueryFilter()• addRemoveOnlyFilter()、removeRemoveOnlyFilter()• addShowAllFilter()、removeShowAllFilter()• addShowOnlyFilter()、removeShowOnlyFilter()• addSwapAxisFilter()、removeSwapAxisFilter()	addEventFilter()、 removeEventFilter()

使用すべきでないメソッド	新メソッド
イベント事後処理 (イベント・リスナー): <ul style="list-style-type: none"> • addChartPageFilter() • removeChartPageFilter() 	addEventListener()、 removeEventListener()
一般的な Blox メソッド: <ul style="list-style-type: none"> • display() • render() • renderHtmlHeader() • renameBookmark() • restoreBookmark() 	<ul style="list-style-type: none"> • display()、render()、および renderHtmlHeader() は、HttpServletRequest の代わりに BloxRequest を、HttpServletResponse の代わりに BloxResponse を使用するようになりました。 • ブックマークを名前変更 (再保管) するには BookmarksBlox.getBookmark() を使用してください。 • ブックマークをリストアするには loadBookmark() を使用してください。
FormBlox: <ul style="list-style-type: none"> • TimeUnitSelectFormBlox.setMultiple() • SelectFormBlox.setMultiple() • MemberSelectFormBlox.setMultiple() • DimensionSelectFormBlox.setMultiple() • CubeSelectFormBlox.setMultiple() 	代わりに setMultipleSelect() を使用します。
RepositoryBlox: <ul style="list-style-type: none"> • killSession() • logout 	置換なし。

使用すべきでないメソッド	新メソッド
<p>com.alphablox.blox.repository:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Application.getContextName() • Application.getEntApp() • Cube.createCubeDefinition() (4つのバリエーション) • Cube.setDataSourceName() • DataSource.testConnection(HttpServletRequest) • Server.getClusteringMaxHosts() • Server.getClusteringStartupWait() • Server.getMaxCubes() • Server.getSmtServer() • Server.isMaxcubesEnabled(), Server.getMaxCubes() 	<ul style="list-style-type: none"> • エンタープライズ・アプリケーションの名前には Application.getJ2EEAppName() および getModuleName() を使用します。 • Cube オブジェクトや DataSource オブジェクトを作成するには、AdminBlox.createCubeDefinition() および AdminBlox.createDataSource() を使用します。 • DataSource.testConnection() メソッドは HttpServletRequest の代わりに BloxRequest を使用するようになりました。 • Server.getClusteringMaxHosts() メソッドは常に 10 を戻すようになりました。クラスター内の実際のホスト数は無制限です。 • Server.getClusteringStartupWait() メソッドは常に 60 を戻します。実際の起動時間はクラスタリング・サーバー間プロトコルに依存するため、調整できません。 • Server.getMaxCubes() は常に 0 を戻すようになりました。 • Server.getSmtServer() に関しては、Web アプリケーションのコンテキスト・パラメータを使用するか、DB2 Alphablox の外部で属性を設定するその他の適切な方法を使用してください。 • Server.isMaxCubesEnabled() メソッドには置換がなく、常に false を戻します。
<p>com.alphablox.blox.uimodel.BloxModel:</p> <ul style="list-style-type: none"> • setApplyThemeLayout() 	<p>置換なし。</p>
<p>com.alphablox.blox.uimodel.core.DateChooser:</p> <ul style="list-style-type: none"> • getImageURL() • isThemeBasedImage() 	<p>代わりに getIcon().getImageURL() および getIcon().isThemeBasedImage() を使用します。</p>
<p>com.alphablox.blox.pdfreport.PDFReport:</p> <p>addButton(), getBlox(), getBloxList(), getPrintable(), resetPrintable(), setPrintable()</p>	<p>どのメソッドも、HttpSession の代わりに BloxSession を、HttpServletRequest の代わりに BloxRequest を使用するようになりました。Javadoc 資料の中の Blox API 変更リストを参照してください。</p>
<p>チャートの凡例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Legend.setLegendItemStyle() • Legend.setLegendRegionStyle() 	<p>代わりに以下のメソッドを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Legend.setTextStyle() • Legend.setRegionStyle()

使用すべきでないフィールド

使用すべきでない定数	新しい定数
DataSourceSelectFormBlox: <ul style="list-style-type: none"> • IBMDB2JDBCdriver (フィールド値: IBM DB2 JDBC Driver) • OracleType4Driver (フィールド値: Oracle Type 4 Driver) • SybaseJConnectDriver (フィールド値: Sybase JConnect Driver) • WebLogicMS_SQLServerDriver (フィールド値: WebLogic MS-SQL Server Driver) 	DataSourceSelectFormBlox: <ul style="list-style-type: none"> • DB2Driver (フィールド値: IBM DB2 JDBC Driver) • OracleDriver (フィールド値: Oracle Driver) • SybaseDriver (フィールド値: Sybase SQL Server Driver) • MSSQLDriver (フィールド値: Microsoft SQL Server Driver)
RepositoryBlox: TYPE_HASHTABLE	

使用すべきでないコンストラクター

以下の表は、このリリースで使用が推奨されないコンストラクターをリストしています。

使用すべきでないコンストラクター	新しいコンストラクター
すべての DateChooser コンストラクター: <ul style="list-style-type: none"> • DateChooser() • DateChooser(BloxContext, Date, ICalendar, IDateFormat) • DateChooser(Date) • DateChooser(Date, ICalendar, IDateFormat, Locale) • DateChooser(Date, int) • DateChooser(ICalendar, IDateFormat, Locale) • DateChooser(int) 	代わりに、以下の新しいファクトリー・メソッドを使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> • DateChooser.getInstance() • DateChooser.getInstanceWithContextLocale(Date, ICalendar, IDateFormat, BloxContext) • DateChooser.getInstanceWithDate(Date) • DateChooser.getInstanceWithDateLocale(Date, ICalendar, IDateFormat, Locale) • DateChooser.getInstanceWithDateStyle(Date, int) • DateChooser.getInstanceWithLocale(ICalendar, IDateFormat, Locale) • DateChooser.getInstanceWithStyle(int)
com.alphablox.blox.logic: BloxDestroyedListener(HttpSession, Blox, String)	BloxDestroyedListener(BloxSession, Blox, String) を使用してください。
com.alphablox.blox.uimodel: MemberFilterBrixModel(), MemberFilterBrixModel(String), MemberFilterBrixModel(String, Locale[])	MemberFilterBrixModel (Locale[]) を使用してください。

使用すべきでないクラス

以下の表は、このリリースで使用が推奨されないクラスをリストしています。

使用すべきでないクラス	新しいクラス
com.alphablox.blox.filter パッケージ内の ChartPageEvent	com.alphablox.blox.event パッケージ内の ChartPageListener

使用すべきでないインターフェース

以下の表は、このリリースで使用が推奨されないインターフェースをリストしています。

使用すべきでないインターフェース	新しいインターフェース
com.alphablox.blox.filter パッケージ内の ChartPageFilter	com.alphablox.blox.event パッケージ内の ChartPageListener

第 8 章 資料

IBM では DB2 Alphablox の資料について、資料のフィックスパックの作成とその他の資料の更新を定期的実施する場合があります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/alphablox/library.html> の DB2 Alphablox ライブラリーには常に、最新の情報および技術情報と白書への追加リンクがあります。

IBM Web サイトの <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/ablxhelp/8.3/index.jsp> DB2 Alphablox インフォメーション・センターは、PDF またはハードコピー資料よりも頻繁に更新されています。

柔軟性の高いインストール・オプション

以下のオプションから各自のニーズに最も適したものを使用して、DB2 Alphablox の資料を表示してください。

- ご使用の資料を常に最新に保つために、すべての資料には、IBM Web サイトでホストされている DB2 Alphablox インフォメーション・センターから直接アクセスしてください。管理ページから、インフォメーション・センターおよび DB2 Alphablox Javadoc へのすべてのリンクは、デフォルトでは最新の情報を掲載している IBM Web サイトにつながっています。
- イン트라ネット上の 1 つのサーバー上に、DB2 Alphablox 資料をインストールしておけば、ネットワーク・トラフィックをイン트라ネット内部に限定することができます。DB2 Alphablox 資料のインストーラーには、以下の 2 つのオプションが用意されています。
 - 「既存の DB2 Alphablox インストール下にインストールします」オプションでは、既存の DB2 Alphablox インストール内容の下に資料をインストールできます。このオプションを使用すると、DB2 Alphablox の管理ページからインフォメーション・センターおよび Javadoc へのすべてのリンクは、このローカル側でインストールされたバージョンにつながるように自動的に変更されます。
 - 「スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールします」オプションでは、資料を DB2 Alphablox インスタンスに関連付けずに任意の場所にインストールすることができます。それによって、Windows システムでのアプリケーション開発中に、資料にアクセスできるようになるので便利です。DB2 Alphablox の管理ページからインフォメーション・センターへのリンクをこのスタンドアロンのインストールにつなげる場合、必ずイン트라ネット上のサーバーにスタンドアロンのインフォメーション・センターをインストールしてください。その後、43 ページの『スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール』の説明に従ってリンクを変更することができます。

注: ローカル・システムにインフォメーション・センターをインストールした場合、それにアクセスするには、まず始動する必要があります。Windows システムでは、作成したショートカットを使用します。Linux システムおよび UNIX システムでは、`IC_start.sh` スクリプトを実行します。ショートカットについ

てと、ファイルのインストール先の場所については、43 ページの『スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール』に説明されています。

PDF 資料

DB2 Alphablox インフォメーション・センターの情報は PDF ファイルとして利用できます。DB2 Alphablox ライブラリー・ページ (<http://www.ibm.com/software/data/db2/alphablox/library.html>) には、PDF ファイルおよびインフォメーション・センターへのリンクがあります。また、PDF 文書は DB2 Alphablox CD の documentation/pdf ディレクトリーの下にも収録されています。翻訳されたバージョンが存在する場合、それぞれの言語ディレクトリーに編成されています。すべての資料を調べるには、英語ディレクトリー (en_US フォルダー) をご覧ください。

既存の Alphablox インストール先へのインストール

資料インストーラーを実行する際に「既存の Alphablox インストール下にインストールします」オプションを選択すると、DB2 Alphablox の管理ページからのインフォメーション・センターおよび Javadoc へのすべてのリンクが必ずインストール済みのバージョンにつながるように自動的に変更されます。

表 1. 既存の Alphablox インストール下にインストールする場合の資料のインストール場所

コンポーネント	場所	エントリー・ページ
インフォメーション・センター	<alphablox_dir>/InfoCenter	ic.html (インフォメーション・センターを開始するには、IC_start.bat または IC_start.sh を実行します。)
DB2 Alphablox Blox API Javadoc	<alphablox_dir>/system/documentation/ javadoc/blox	index.html
Blox API 変更リスト	<alphablox_dir>/system/documentation/ javadoc/blox	changes.html
FastForward API Javadoc	<alphablox_dir>/system/documentation/ javadoc/fastforward	index.html
Relational Reporting API Javadoc	<alphablox_dir>/system/documentation/ javadoc/report	index.html

何らかの理由で IBM ホスト・インフォメーション・センターに切り替えたり、別のシステムに資料をインストールしたりすることが必要になった場合、44 ページの『インフォメーション・センターおよび Javadoc 資料へのリンクの構成』を参照してください。

スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてのインストール

資料インストーラーを実行して「スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールします」オプションを選択すると、インフォメーション・センターと Javadoc は、指定したディレクトリーにインストールされます。そうすると、イントラネット内の別のシステム上の資料にサービスを提供したり、ご自身の開発システム上の資料により簡単にアクセスしたりできるようになります。

Windows システムでは、それによって以下のショートカットを含む「**IBM DB2 Alphablox Online Documentation**」プログラム・グループが作成されます。

- 資料
 - インフォメーション・センター
 - インフォメーション・センターの開始
 - インフォメーション・センターの停止
- Javadoc
 - Blox API
 - Blox API 変更リスト
 - FastForward API
 - Relational Reporting API

注: 資料または Javadoc のサブセットだけのインストールを選択した場合、ショートカットが異なることがあります。

注: Linux システムまたは UNIX システムでは、ショートカットは作成されません。各資料コンポーネントの場所とエントリー・ページの詳細は、以下の表を参照してください。

表 2. スタンドアロン・インストールの場合の資料のインストール場所

コンポーネント	場所	エントリー・ページ
インフォメーション・センター	<alphablox_doc_install>	インフォメーション・センターを開始するには、IC_start.bat または IC_start.sh を実行します。インフォメーション・センターの起動方法の詳細は、下の注記を参照してください。
DB2 Alphablox Blox API Javadoc	<alphablox_doc_install>/javadoc/blox	index.html
Blox API 変更リスト	<alphablox_doc_install>/javadoc/blox	changes.html
FastForward API Javadoc	<alphablox_doc_install>/javadoc/fastforward	index.html

表 2. スタンドアロン・インストールの場合の資料のインストール場所 (続き)

コンポーネント	場所	エントリー・ページ
Relational Reporting API Javadoc	<alphablox_doc_install>/javadoc/report	index.html

注: インフォメーション・センターを起動するには、次のようにします。

- ブラウザー・ウィンドウで、http://127.0.0.1:port_number/help/index.jsp にアクセスします。ポート番号は、インストール中に指定したものです。ポート番号を覚えていない場合は、IC_start.bat または IC_start.sh ファイルをテキスト・エディターで開けば、番号情報が見つかります。-port オプションの後の番号は、インフォメーション・センターのポート番号です。
- Windows システムでは、「**IBM DB2 Alphablox Online Documentation**」プログラム・グループの下に作成した「**インフォメーション・センター**」ショートカットを使用することもできます。

スタンドアロンのインフォメーション・センターを指すように DB2 Alphablox インスタンスを構成する必要がある場合は、『インフォメーション・センターおよび Javadoc 資料へのリンクの構成』を参照してください。

インフォメーション・センターおよび Javadoc 資料へのリンクの構成

インストールした DB2 Alphablox 内の以下のファイルを手動で変更して、資料をインストールする場所を指定することができます。これらのファイルはすべて、<alphablox_dir>/system/documentation/ の下にあります。

表 3. 資料へのカスタム・リンクのために構成するファイル

管理ページからのリンク	指定先
DB2 Alphablox インフォメーション・センター	ic.html
Blox API Javadoc	jdoc_blox.html
Blox API 変更リスト Javadoc	jdoc_change.html
FastForward API Javadoc	jdoc_ffwd.html
Relational Reporting API Javadoc	jdoc_report.html

同じディレクトリー内に、各エントリー・ページごとに他のバージョンが 2 つずつあります。1 つは IBM ホスト・バージョン (_hosted.html) を、もう 1 つは、ローカル側でインストールされたバージョン (_local.html) を指します。

IBM ホスト資料への切り替え

IBM ホストのインフォメーション・センターおよび Javadoc に切り替える必要がある場合、以下の表に示されているとおりに、同じディレクトリー内のエントリー・ページのホスト・バージョンを、指定されたファイルに上書きコピーします。その際、ファイル名から _local を除去します。

表 4. IBM ホスト資料について使用するファイル

管理ページからのリンク	コピー元のファイル	コピー先
DB2 Alphablox インフォメーション・センター	ic_hosted.html	ic.html
Blox API Javadoc 資料	jdoc_blox_hosted.html	jdoc_blox.html
Blox API Change List Javadoc 資料	jdoc_change_hosted.html	jdoc_change.html
FastForward API Javadoc 資料	jdoc_ffwd_hosted.html	jdoc_ffwd.html
Relational Reporting API Javadoc 資料	jdoc_report_hosted.html	jdoc_report.html

ローカル側でインストールされている資料への切り替え

既存の DB2 Alphablox インストール内容の下にインストールされている資料に切り替える必要がある場合、以下の表に示されているとおりに、同じディレクトリー内のエントリー・ページの `_local.html` バージョンを、指定されたファイルに上書きコピーします。その際、ファイル名から `_local` を除去します。

表 5. 既存の DB2 Alphablox インストール内容の下にインストールされる資料について使用するファイル

管理ページからのリンク	コピー元のファイル	コピー先
DB2 Alphablox インフォメーション・センター	ic_local.html	ic.html
Blox API Javadoc	jdoc_blox_local.html	jdoc_blox.html
Blox API Change List Javadoc 資料	jdoc_change_local.html	jdoc_change.html
FastForward API Javadoc 資料	jdoc_ffwd_local.html	jdoc_ffwd.html
Relational Reporting API Javadoc 資料	jdoc_report_local.html	jdoc_report.html

スタンドアロン・インフォメーション・センターへの切り替え

イントラネット上の別個のサーバー上に DB2 Alphablox 資料をインストールしており、DB2 Alphablox の管理ページからのリンクを構成し、そのインストール先を指すようにする場合、以下のようにします。

1. `ic_hosted.html` を `ic.html` に上書きコピーします。
2. ページの `<meta>` タグ内の URL 値を、次のように変更してリダイレクトします。

```
<meta http-equiv="REFRESH" content="0; URL=http://server:port/help/index.jsp">
```

第 9 章 アクセシビリティ

アクセシビリティ・フィーチャーは、運動障害または視覚障害など身体障害のあるユーザーがソフトウェア・プロダクトをうまく使用するための機能です。DB2 Alphablox のアクセシビリティ・フィーチャーは、次のように大別されます。

- ユーザーは、キーボード・ショートカットとアクセラレーターを使用することにより、Blox ユーザー・インターフェース内をナビゲートしてデータ分析アクションを実行できます。
- 視覚障害のあるユーザーのために、DHTML クライアント内の Blox ユーザー・インターフェースをハイコントラスト・テーマでレンダリングできます。
- ハイコントラスト・テーマを使ってレンダリングされた Blox ユーザー・インターフェースでは、ブラウザで設定されたフォント・サイズの表示設定が使用されます。
- ユーザーは、キーボード・ショートカットを使用することにより、ReportBlox で作成されたリレーショナル・レポートをナビゲートして対話することができます。
- 管理ユーザーはキーボード・ショートカットを使用することにより、DB2 Alphablox 管理ページ内をナビゲートして管理作業を実行できます。
- DB2 Alphablox のインフォメーション・センターは、大半のブラウザでサポートされている XHTML 1.0 フォーマットになっています。
- DB2 Alphablox のインフォメーション・センターとエンド・ユーザー・オンライン・ヘルプでは、ブラウザで設定されたフォント・サイズの表示設定が使用されます。

重要: アクセシビリティは、Internet Explorer 6.0 でのみサポートされます。

キーボード・ナビゲーション

アプリケーションのユーザーは、キーボードだけを使用して、Blox ユーザー・インターフェース内のデータのナビゲートおよび対話を実行できます。マウスを使って実行できる操作を、キーまたはキーの組み合わせを使用して実行できます。一般にキー・ストロークは、Windows の標準のキーボード・ショートカットに沿ったものです。また、キーボード・ナビゲーションは、ReportBlox を使って作成された対話式レポートでもサポートされます。詳細は、『Blox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカットとアクセラレーター』および『ReportBlox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカット』を参照してください。

アクセス可能な表示

DHTML クライアントには、ユーザーが Internet Explorer を使ってナビゲートしてデータ分析アクションを実行するためのキーボード・ショートカットが用意されています。視覚障害のあるユーザーの場合、用意されたハイコントラスト・テーマに Blox ユーザー・インターフェースをレンダリングでき、ブラウザで指定したフォント・サイズ設定も考慮されます。視覚障害のあるユーザー用に、アプリケーション開発者はハイコントラスト・テーマ (theme=highcontrast) を使ってアプリケーション

ョンをレンダリングできます。これは、カスタム・ユーザー・プロパティなどのユーザー・プロファイルを使って実現できます。

支援テクノロジーとの互換性

スクリーン・リーダーやその他の支援テクノロジーを使用して、Blox ユーザー・インターフェースまたはリレーショナル・レポート内のデータを読むことができます。

アクセス可能な資料

DB2 Alphablox インフォメーション・センターは、ほとんどの Web ブラウザーでサポートされている XHTML 1.0 フォーマットで表示されます。XHTML の場合、ブラウザーで設定した表示設定のまま資料を表示できます。また、スクリーン・リーダーやその他の支援テクノロジーも使用できます。

制限事項

Blox ユーザー・インターフェースにおいてサポートされているアクセシビリティ・サポートには、次のような制限事項があります。

- Blox ユーザー・インターフェースをナビゲートするためのキーボード・ショートカットは、Internet Explorer 6 ブラウザーでのみサポートされる。
- チャート・コンポーネントには、キーボードを使用してアクセスできない。身体的障害のあるユーザーの場合、チャート・コンポーネントを PresentBlox から除去する (chartAvailable = "false") か、または格子コンポーネントだけを使用するようお勧めします。
- ツールバー・コンポーネントと、ツールバー上のツールバー・ボタンには、キーボードを使ってアクセスできない。身体的障害のあるユーザーの場合、ツールバーを非表示にする (toolbarVisible="false") ことをお勧めします。基本的にツールバーのボタンは、メニュー・バーから使用できる機能のサブセットへのショートカットであるため、ツールバーを表示しないように設定しても機能が失われることはありません。

詳細は、「開発者用ガイド」の『アクセス可能アプリケーションの設計』のトピックを参照してください。

Blox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカットとアクセラレーター

Blox ユーザー・インターフェース内をナビゲートしてデータと対話するのに使用するキー・ストロークは、一般的に Windows の標準のキーボード・ショートカットに対応しています。以下の点に注意してください。

- キーボード・ショートカットは、Internet Explorer ブラウザーでのみサポートされます。
- チャート・コンポーネント内のナビゲートではキーボード・ショートカットは、サポートされません。

Blox ユーザー・インターフェースは通常、データを表す格子やチャートなどの特定のユーザー・インターフェース・コンポーネントと、メニュー・バー、ドロップダ

ウン・リスト、またはボタンなどのユーザー・コントロールで構成されています。ユーザー・コントロールを使って、データ分析アクションを実行することができます。以下は、Blox ユーザー・インターフェースを使用するための一般的なキーボード・ショートカットです。

表6. 一般的なキーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
次または前のユーザー・コントロールまたはユーザー・コンポーネントのセットに移動する	Tab および Shift + Tab を使用して前方および後方に移動します。 たとえば、PresentBlox でタブを押すと、メニュー・バーからページ・フィルターへ、次にデータ・レイアウト・パネルへ、さらにグリッドへ移動します。
コントロール・セット内で次または前の項目に移動する	メニュー・バー内の個々のメニュー項目、グリッド内のデータ・セル、またはセット内のラジオ・ボタンの間を移動するには、矢印キーを使用します。
ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを選択または選択解除する	スペース・バーを使用します。
ボタンを選択してクリックする	Tab および Shift + Tab を使用して次または前のボタンに移動します。 選択したボタンのクリック操作をシミュレートするには Enter を押します。 キャンセルするには Esc を押します。
選択したメニュー項目またはボタンを実行する (ボタンのクリック操作に相当する)	Enter キーまたはスペース・バーを使用します。
ニーモニックを使用してアクティブ・メニュー内のメニュー項目を選択する	メニュー項目内の下線が引かれた文字を押して、それを選択します。
Blox 内にいるときにメニュー・バーに移動する	Ctrl + Alt + M を押します。

表7. 格子内のナビゲーションとデータ分析

アクション	ショートカット
格子内のさまざまなデータ・セルへナビゲートする	タブを押して格子に移動し、格子全体が選択されているときに、下矢印キーを押してデータ・セルに入ります。これで、矢印キーまたは Tab キーのいずれかを使用してセル間の移動が行えるようになります。
格子のデータ・セル内で右マウス・ボタン・クリック・メニューを起動する	Shift + F10 を押します。
格子データ・セル内にいるときにフォーカスを格子全体に戻す	Esc を押します。 すると、格子全体にフォーカスが置かれます。これで、他のコントロールまたはコンポーネントにタブ移動できるようになります。

表7. 格子内のナビゲーションとデータ分析 (続き)

アクション	ショートカット
ページ・フィルターなどでドロップダウン・リストを活動化する	ALT+ 下矢印キーを押します。
Blox 内にいるときにメニュー・バーに移動する	Ctrl + Alt + M を押します。

表8. ツリー・メニューのナビゲーション

アクション	ショートカット
ツリー・メニュー内をナビゲートする	上矢印キーと下矢印キーを使用します。
ツリー内の縮小表示されているノードを展開する	右矢印キーを押します。
ツリー内の展開されているノードを縮小表示する	左矢印キーを押します。

注: スクリーン・リーダー・プログラムを使用する場合、スクリーン・リーダーがキーボードに対して制御を行うため、ここで説明されているショートカットは適用されない場合があります。

ReportBlox ユーザー・インターフェース用のキーボード・ショートカット

ReportBlox を使用して作成された対話式レポート内をナビゲートするのに使用するキー・ストロークは、一般的に Windows の標準のキーボード・ショートカットに対応しています。以下の表は、ReportBlox の対話式コンテキスト・メニューの使用時と、「レポート・スタイル」ダイアログを使用したレポートのスタイルの設定時のキーボード・ショートカットを一覧で示しています。

表9. ReportBlox の対話式メニューの一般的なキーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
次または前のグループ・ヘッダー、列ヘッダー、またはグループ合計コンテキスト・メニューに移動する	Tab および Shift + Tab を使用します。 ホット・スポットにタブ移動するとコンテキスト・メニューは自動的にドロップダウンします。
メニュー項目を選択する	矢印キーを使用して必要な項目に移動し、Enter を押します。

表10. 「レポート・スタイル」ダイアログのキーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
コントロール間をナビゲートする	Tab および Shift + Tab を使用して前方および後方に移動します。
ドロップダウン・リストを活動状態にする	Alt + 下矢印を使用します。 上矢印キーおよび下矢印キーを使用してスクロールし、ドロップダウン・リストを展開せずに選択を行うこともできます。

表 10. 「レポート・スタイル」ダイアログのキーボード・ショートカット (続き)

アクション	ショートカット
ドロップダウン・リスト内の項目を選択する	上矢印キーおよび下矢印キーを使用して必要な項目に移動します。Enter を押すか、または Tab を押して選択を設定し、次のコントロールに移動します。
ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを選択または選択解除する	スペース・バーを使用します。
変更を適用する	Enter を押します。
キャンセルする	Esc を押します。

注: キーボード・ショートカットは、Internet Explorer ブラウザーでのみサポートされます。

注: スクリーン・リーダー・プログラムを使用する場合、スクリーン・リーダーがキーボードに対して制御を行うため、ここで説明されているショートカットは適用されない場合があります。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation, J46A/G4, 555 Bailey Avenue, San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

1-2-3 [®]	AIX	AIX 5L [™]
Cube Views	DB2	DB2 OLAP Server
DB2 Universal Database [™]	IBM	Informix [®]
iSeries [™]	pSeries [®]	Rational [®]
Red Brick [™]	Tivoli [®]	WebSphere
zSeries		

Alphablox および Blox は、Alphablox Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



プログラム番号: 5724-L14

Printed in Japan

SD88-6691-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12